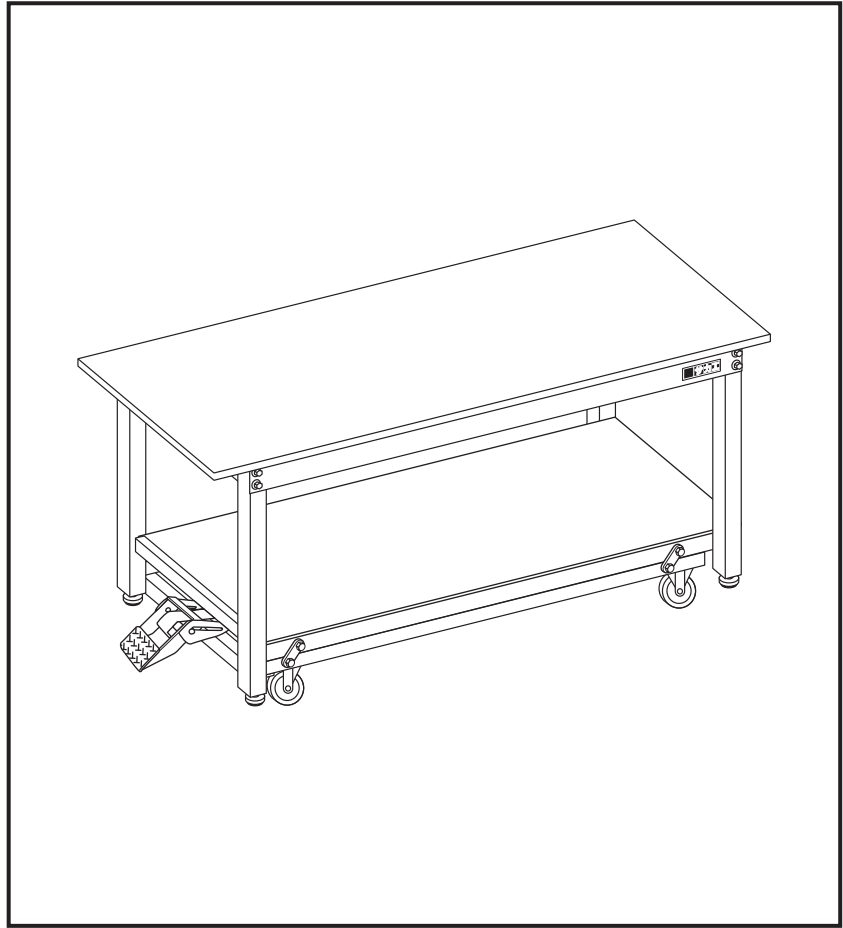


ペダル昇降移動式作業台 オプション昇降台車 [KTW]

取扱説明書

この度はサカエ製品をお買い上げ下さいましてありがとうございます。
この説明書は、この製品の使い方(使用上の注意事項)と組立てについて記載しています。組立て・ご使用前に、この説明書をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
また、この製品を末長くご使用いただくために、この説明書は大切に保存して下さい。
尚、弊社では安全な製品作りを常に心がけておりますが、ご不明な点がございましたら、下記のお客様相談室までご連絡下さい。



この製品を安全に、また末長くご利用いただくために、次の事項を必ず守って下さい。

△安全上のご注意

- この製品の等分布耐荷重（天板全面に均等に物を置いた場合）は、

	固定時	移動／昇降時
	W900×D600	W1200×D750以上
CK作業台	300kg	150kg
KK・KH・KD作業台	350kg	150kg
SKK・SKD作業台	400kg	150kg
CS・KTD・TKW作業台	500kg	150kg
KT作業台	800kg	150kg
KV作業台	1200kg	—kg
KW作業台	2000kg	—kg

積載荷重は、製品の耐荷重の範囲内にして下さい。それ以上載せたり、荷重が片寄りますと、製品破損の恐れがあります。
- 製品の上に腰を掛けたり、乗ったりしないで下さい。転倒や転落事故の原因になります。
- 使用中にボルトやネジのゆるみなどによるガタツキが生じたときは、締め直して下さい。ゆるんだままで使用していると、変形や破損及び転倒などの原因となります。
- 製品の分解・改造や部品をはずしたり、はずれたままで使用しないで下さい。
- キャビネットの引出しはゆっくりと引いて下さい。引出しを強く引きますとストッパー破損の原因になり、抜け落ちる恐れがあります。
- キャビネットの引出しを引いたまま上から強く押えたり、重い物を置いたり、踏台として使用しないで下さい。故障や事故の原因となります。
- 可動部（キャビネット、キャスターなど）の隙間に指を入れますと、指をはさむ恐れがありますので絶対に入れないで下さい。
- 移動式作業台を台車や運搬車のかわりに使用しないで下さい。
- 作業台を引きずって移動しないで下さい。床を傷つけたり、アジャスター破損の原因となります。
また、本体と床面等にガタツキがあるときは、アジャスターで水平に調整して下さい。
- この製品を移動するときは、上昇ペダルを踏み込み作業台がフリーになる状態にしてから長辺方向にゆっくり行行って下さい。ただし、引出しのある物は鍵をかける等して、引出しが飛び出ないようにして移動して下さい。
短辺方向に行きますと転倒の恐れがあります。ただし、床に段差のあるところを移動するときは、載せてある物を全ておろし、天板を持ち複数でゆっくり持ち上げて移動して下さい。
- この製品を第三者に貸すときは、取扱方法を十分に説明し、この説明書もお渡し下さい。

◆使用上のご注意

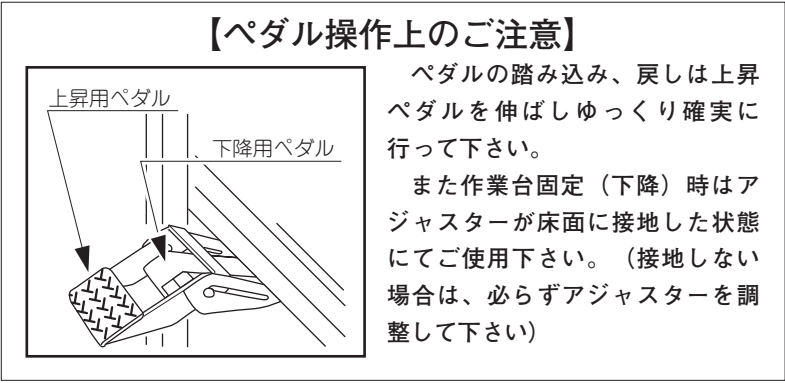
- この製品は、室内または屋内用です。屋外や水のかかるところでは、故障や表面材の損傷の原因となりますので使用しないで下さい。
- 直射日光の当たるところや温度・湿度の著しいところでの使用は避けて下さい。変色や変形の原因となります。
- 製品の上にハンダゴテ等、高温になった機具類、熱い湯のみや加熱したナベ・ヤカンなどを直接置かないで下さい。変色や変形の原因となります。
- 製品を水に濡れたままにしておきますと表面材の損傷の原因となりますので、必ず乾いたやわらかい布で拭き取って下さい。
- メラミン化粧板は比較的衝撃にもろい性質がありますので、衝撃を加えますと損傷の原因となります。
- キャビネットの鍵は盗難防止用ではありませんので、貴重品等は保管しないで下さい。
- キャビネットの鍵を掛けるときは全ての引出しを確実に閉めて下さい。閉まっていないと鍵は掛かりません。
- キャビネットをご使用になる前に鍵番号等は控えて下さい。
- キャビネットの鍵を紛失した場合は、鍵番号を確認して、購入先を通じてご注文下さい。（有料となります。）
- 消耗部品には寿命があります。キャスター部や可動部などに、異常音等（損耗現象）が発生した場合は、購入店へご相談下さい。
- キャスターやアジャスター等は床面が汚れたり、跡形が残る場合があります。
- 昇降ペダルを操作するときには、膝に注意して行行って下さい。
- 特別なご使用をされる場合は、購入店へご相談下さい。
- 製品に不具合が生じたときは、購入店へご相談下さい。

◆サカエ製品全般のお手入れのしかた

通常は乾いたやわらかい布でから拭きして下さい。
汚れが著しい場合は、次の1～3の手順を守って汚れを落として下さい。
1. 薄めた中性洗剤につけた布を、かたく絞って拭いて下さい。
2. 水につけた布をよく絞って、中性洗剤が残らないように拭いて下さい。
3. 乾いたやわらかい布で、水分が残らないように拭き取って下さい。
※汚れが落ちない場合は、1～3の作業を繰り返し行行って下さい。
※シンナー系の溶剤、アルカリ性の洗剤等は使用しないで下さい。使用しますと表面材の損傷の原因となります。

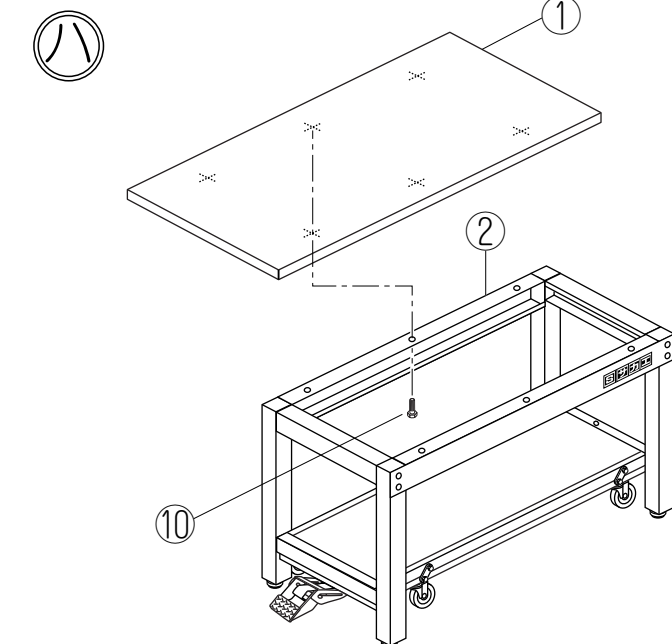
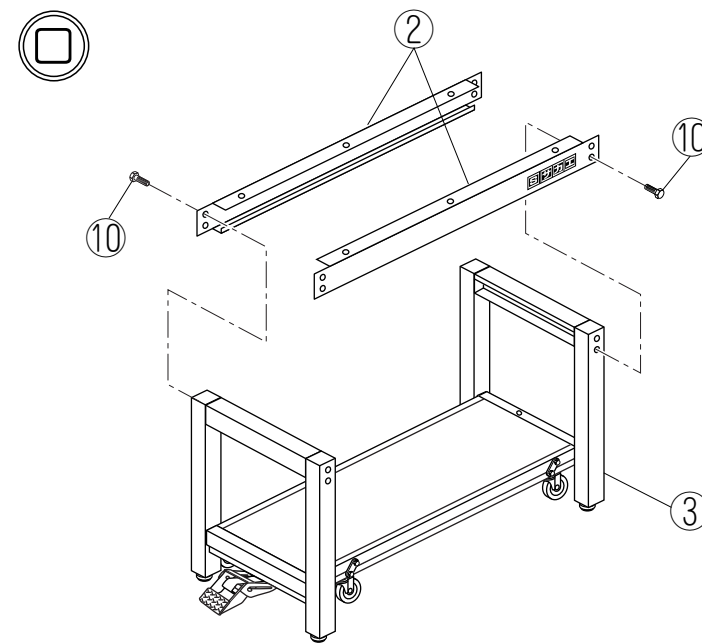
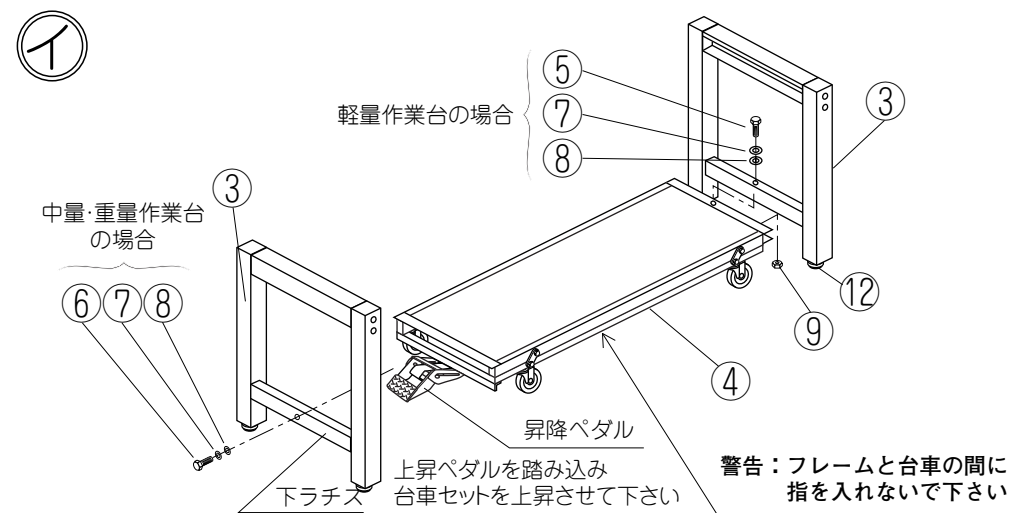
●部 品 明 細

品番	品 名	1台分数量					
		軽量作業台			中量・重量作業台		
		奥行600mmタイプ	奥行750mmタイプ	奥行900mmタイプ	奥行600mmタイプ	奥行750・800mmタイプ	奥行900mmタイプ
1	天板	1	1	1	1	1	1
2	天受ビーム	2	2	2	2	2	2
3	脚フレーム	2	2	2	2	2	2
4	台車セット	1	1	1	1	1	1
5	六角ボルト(M8×70ℓ)	2	2	2	—	—	—
6	六角ボルト(M8×40ℓ)	—	—	—	2	2	2
7	バネ座金(M8)	2	2	2	2	2	2
8	平座金(M8)	2	2	2	2	2	2
9	セレート付フランジナット(M8)	2	2	2	—	—	—
10	六角ボルト(平座金、バネ座金組付)(M8×18ℓ)	12	14	14	12	14	14
11	皿小ネジ(M8×15ℓ)	—	—	2	—	—	2
12	アジャスター	4	4	4	4	4	4
13	補強フレーム	—	—	1	—	—	1
14	ペダルセット	1	1	1	1	1	1
15	ペダルピン	1	1	1	1	1	1
16	ストッパーピン	1	1	1	1	1	1
17	平座金(Φ10穴)	5	5	5	5	5	5
18	松葉ピン	2	2	2	2	2	2
19	割ピン	1	1	1	1	1	1
21	キャビネット	1	1	1	1	1	1
22	キャビネット吊金具	2	2	2	2	2	2
23	六角ボルト(M8×15ℓ)	4	4	4	4	4	4
24	平座金(M8)	4	4	4	4	4	4
25	浮上がり防止板	—	2	2	—	2	2
26	トラス小ネジ(M8×12ℓ)	—	2	2	—	2	2



《ペダル昇降式 軽量・中量・重量作業台》

●組立方法（まず初めに、部品の確認を行って下さい。）



- ① 脚フレームにアジャスター⑫をねじ込み、台車セット④を脚フレーム③下ラチスの穴に六角ボルト⑥、パネ座金⑦、平座金⑧（軽量作業台の場合 六角ボルト⑤、パネ座金⑦、平座金⑧、セレート付フランジナット⑨）にて仮止めして下さい。

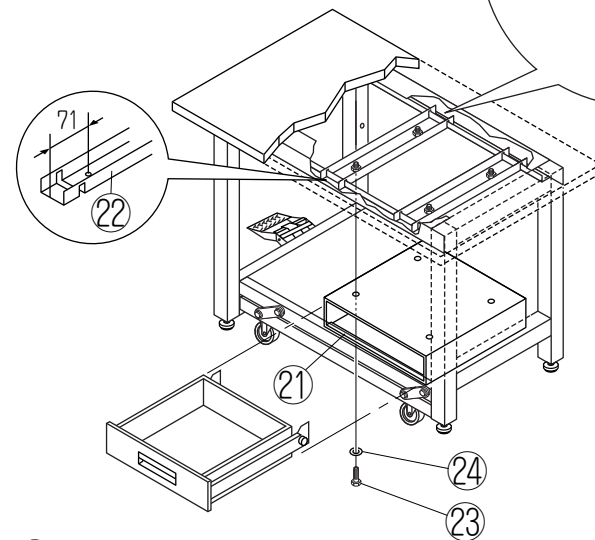
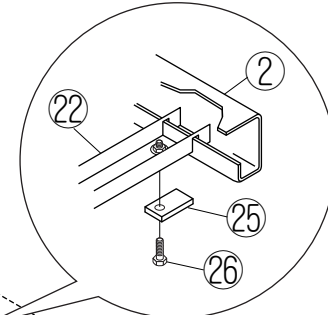
- ② 脚フレーム③の上部に天受ビーム②を六角ボルト（平座金、パネ座金組付）⑩にて仮止めして下さい。

- ③ 天受ビーム②の上に天板①をのせて、六角ボルト（平座金、パネ座金組付）⑩ではずれない様に本締めして下さい。

②

④ 【オプションキャビネットを取付ける場合】

④部詳細
（作業台奥行D600mmタイプ除く）

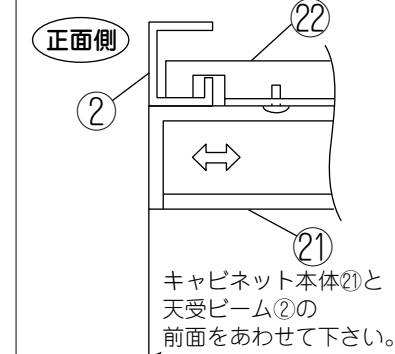


- ⑤（作業台奥行D 600mm の場合）
天受ビーム②の任意の位置にキャビネット吊金具②②をセットし、キャビネット②①の引出しを抜き、キャビネット吊金具のネジ穴に合せ、六角ボルト②③、平座金②④にて仮止めして下さい。
（作業台奥行D750・800・900mmの場合）
天受ビーム②の任意の位置にキャビネット吊金具②②をセットし、キャビネット吊金具の後方（④部詳細）に浮上がり防止板②⑤、トラス小ネジ②⑥にて、浮上がり防止を行ってください。
キャビネット②①の引出しを抜き、キャビネット吊金具のネジ穴に合せ、六角ボルト②③、平座金②④にて仮止めして下さい。

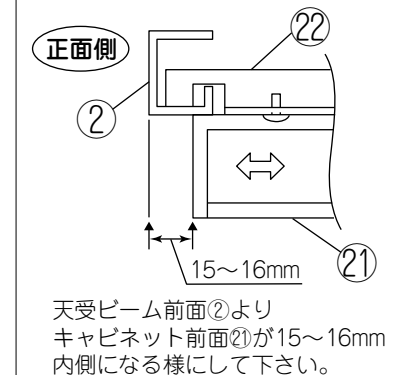
その後、上図キャビネット取付位置についてを参照し、取付けられるキャビネット前面の位置を調整したのち、はずれない様本締めして下さい。

キャビネット取付位置について

⑥NKL-11,22,33の場合

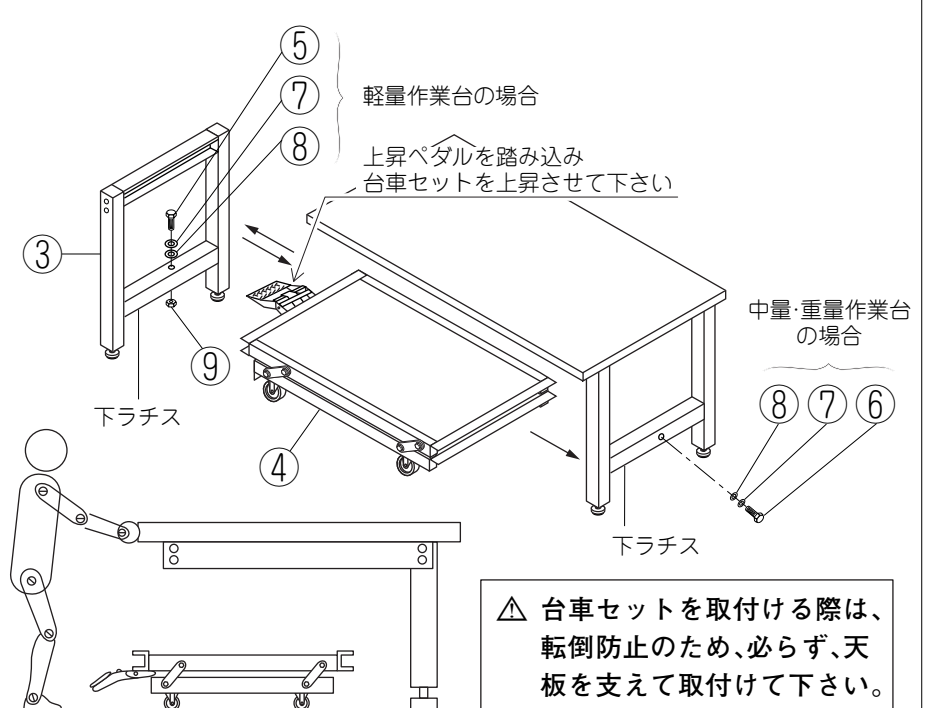


⑥NKL-(S) 10, (S) 20, (S) 30場合



天受ビーム前面②より
キャビネット前面②①が15～16mm
内側になる様にして下さい。

【既存の固定式作業台に台車セットを後付けされる場合】



- 作業台に載せてある物を全ておろして、台車セット④の上昇ペダルを踏み込み、台車セットを上昇させて下さい。
- センターカンヌキ・後カンヌキ・中板等を全てはずしてください。（カンヌキ取付用ビスセットは不要です）
- 注：以降の作業は、必ず複数名にて安全に注意して行ってください。
天板を持ち転倒に注意して、作業台脚フレーム1本をはずし、もう片方の脚フレーム③下ラチスに台車セット④を六角ボルト⑥、パネ座金⑦、平座金⑧（軽量作業台の場合、六角ボルト⑤、パネ座金⑦、平座金⑧、セレート付フランジナット⑨）にて仮止めしてください。
- 取りはずした脚フレームを元に戻し、その脚フレーム下ラチスと台車セットを、六角ボルト⑥、パネ座金⑦、平座金⑧（軽量作業台の場合、六角ボルト⑤、パネ座金⑦、平座金⑧、セレート付フランジナット⑨）にて仮止めしてください。
- 全てのボルトをはずれない様に本締めしてください。

- ⑦（奥行D900mmのタイプのみ）
本体（除く天板）を仮止めの状態で、補強フレーム⑬を天受ビーム②の間に、図1の様に穴のある面を横に向けて斜めにし入れ、それから天受ビームと垂直になる様に回転させます。この時同時にビス穴がある面が下にくる様にします。この状態にしておいてから全てのボルトをはずれない様に本締めして下さい。
本締めが終わったら、補強フレームを天受ビームの中心付近の穴の位置まで移動させて、図2の様に補強フレーム⑬を引っ張りながら、皿小ネジ⑪ではずれない様に本締めして下さい。
〔奥行D600・750・800mmのタイプのみ〕
全てのボルトをはずれない様に本締めして下さい。